

Citation: Glenny AM, Hooper L, Shaw WC, Reilly S, Kasem S, Reid J. Feeding interventions for growth and development in infants with cleft lip, cleft palate or cleft lip and palate. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2004, Issue 3. Art. No.: CD003315. DOI: 10.1002/14651858.CD003315.pub2.

CRG名: Oral Health

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 24 May 2004

Clib issue No.; N/U: 2008 issue 1; -

背景: 口唇および口蓋裂は一般的な先天異常であり、およそ出生700人につき1人の乳児が罹患する。これら乳児への哺乳は緊急の関心事であり、裂を有しない子供に比べて裂を有する子供の発育遅延のエビデンスが存在する。身長に対する体重減少に立ち向かう試みにおいて、様々な助言や道具が裂を有する乳児の哺乳を手助けするために推奨されている。

目的: 本レビューは、口唇裂および／または口蓋裂を有する乳児に対するこれらの哺乳への介入の、成長、発育および親の満足度に対する効果を評価することを目的としている。

検索戦略: 本レビューでは、Cochrane Oral Health Group's Trials register(2001年6月)、the Cochrane Central Register of Controlled Trials(CENTRAL)(The Cochrane Library, Issue 2, 2004)、MEDLINE(1966年～2004年5月24日)、EMBASE(1980年から2002年8月7日)、CINAHL(1982年～2002年8月7日)、PsychINFO(1967年～2002年8月13日)、AMED(1985年～2002年8月13日)を検索した。未出版および進行中の研究の収集も行われた。出版物の言語に関する制約は行わなかった。

選択基準: 口唇裂、口蓋裂あるいは口唇口蓋裂を持って生まれた生後6ヶ月までの乳児に対する哺乳への介入のランダム化比較試験を選択した。

データ収集と分析: 研究は、独立して、正副二通りに、関連性について評価された。選択基準を満たしているすべての研究は、レビューチームの各々のメンバーによって独立して抜粋され、妥当性に対して評価されたデータとなった。可能な場合、著者に対して説明または不明情報のためにコンタクトを取った。

主な結果: 合計232名の乳児を含む4つのランダム化比較試験(RCT)がレビューに選択された。RCT内での比較は、絞ることが可能なもの(ソフトボトル)対硬い哺乳ボトル(2研究)、母乳での授乳対スプーンでの哺乳(1研究)および上顎プレートあり対なし(1研究)であった。ボトルの種類を比較した時、ソフト哺乳ボトルは、改善を要することはなかったが、どの主要なアウトカムに対しても統計学的に有意な差は認められなかった。上顎プレート未装着と比較し、装着した乳児において、統計学的に有意な差は認められなかった。術後6週における体重の統計学的に有意な差が、スプーンでの哺乳と比べた時、母乳での授乳を選ぶ方において認められた(平均差0.47; 95%信頼区間:0.20, 0.74)。

レビューアの結論: ソフトボトルは、硬い哺乳ボトルより、口唇および／または口蓋の裂を有する乳児にとって使いやすいようであるが、ボトルのタイプ間で、成長のアウトカムに違いが出るというエビデンスはない。乳児は口唇裂の手術後、スプーンでの授乳よりも母乳で育てられるべきであるというわずかなエビデンスはある。これら乳児に対する何らかの形の母親への助言および／または支援の使用を評価しているエビデンスは見られなかった。

(翻訳 田口 明・監訳 湯浅秀道; JCOHR)

翻訳公開日: 08年4月1日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点があれば、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版

